

「バラ解説」をご利用いただくにあたり

この度はご採択を賜り、誠にありがとうございます。

つきましては、「バラ解説」をご利用いただく場合の留意点等、ご一読の程をお願い申し上げます。

従来「解答解説書」の問題点

- ・「解答解説書」を先に渡すと、「答え」を丸写しして…勉強にならない。
- ・かといって、1冊終えた後に渡しても…読まない。
- ・その都度「バラの解答解説」を用意しても…読まない。

★「解説」を読むことで学習効果上がるのに…読ませたい、考えさせたい。

「問題集」の「解説書」と「解答書」を分けたねらい

○「バラ解説」でない場合の構成と使用例

構成（本書1冊／解答書1冊／解説書1冊）

・本書と解説書を同時に配布。

☆問題を解くにあたり、解説書を読みながら解きすすめていく…読む。

（「解答そのもの」は掲載していないので「丸写し」はできません）

1回ごとに配りたい場合

「バラ解説」の構成と使用例

構成（本書1冊／解答書1冊／バラ解説 問題数分／

解答PDF）

・本書の一題を解いた後、バラ解説（一回分）を配布。
必要によって、本CD-R内の「解答PDF」を掲示。

☆問題はまず自力で解く。

頭に残っている内に、解説書を…考える、読む。

熟読する必要はありませんが、上記いずれの場合も「解説を読む」ことを習慣づけることにより、国語の設問に対する「既視感」や「気づき」等、大幅な学力の向上が期待できるはずです。

問二

ア || 理解する ① || おつしやる

〈4点×2〉

問三

a || マ行上一段活用・見る b || ヤ行下二段活用・見ゆ

〈2点×4〉

c || サ行変格活用・難ず

d || ラ行変格活用・侍り

問四

1 || ナ行変格活用・連用形

2 || ワ行下二段活用・連用形

〈1点×4〉

3 || ヤ行上二段活用・連用形

4 || カ行変格活用・連用形

問五

A || 田鶴 B || 竜

〈2点×2〉

問六

ア

〈8点〉

問七

雲に棲むことがあるだろうか、いやありはしない。

〈6点〉

問八

深く考えずに他人を非難する癖があるから。(20字)

〈12点〉

問二

ア || 長年・数年来 ① || 優美だ・上品だ

〈4点×2〉

問三

a || ク活用・連体形 b || ナリ活用・連用形

〈2点×4〉

c || ク活用・連用形 d || シク活用・終止形

問四

〈1点×4〉

基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	活用の種類
なし	な	から (く)	かり く	し	かる き	けれ けれ	かれ ○	ク活用
いみじ	いみ	じく (じく)	じかり じく	じ ○	じき じかる	じけれ ○	じかれ ○	シク活用
きよらなり	きよら	なら	なり に	なり	なる	なれ	(なれ) なれ	ナリ活用
漫々たり	漫々	(たら)	たり と	たり	たる	(たれ)	(たれ)	タリ活用

問五

(1) || 促音便・ウ音便

〈3点〉

(2) || 客人としてやって来てかなり長くお話しになる。

〈5点〉

問六

ア

〈6点〉

問七

忠度が荒々しく使う扇の音。(13字)

〈8点〉

問八

ウ

〈8点〉

3

日記

土佐日記
とさ にっき

本書 ↓ p. 8 / 解説書 ↓ p. 12

問二

A 〓 ける
B 〓 る

〈5点×2〉

問三

(1) ある

〈10点〉

問四

(2) 鳥の羽のようであるのだろうか。

〈10点〉

問五

エ

〈10点〉

問二

㊦ || 参上する ㊧ || 退出する

〈4点×2〉

問三

㊦ || 尊敬・連用形 ㊧ || 打消意志・終止形

〈3点×2〉

問四

(1)

〈1点〉

ず	未然形	連用形	終止形	連体形	已然形	命令形	接続
ず	さ ^ず ら ^(ず)	さ ^ず り	○ず	さ ^ぬ る	さ ^ね れ	さ [○] れ	未然形

(2) 1 || 反実仮想 2 || 使役 3 || 使役

〈1点×3〉

問五

鬼につかまれたことによる恐怖を見せまいと我慢する様子。(27字)

〈12点〉

問六

ウ

〈8点〉

問七

イ

〈5点〉

問八

ア

〈7点〉

問二

ア || 徒歩で ① || つまらない・無駄だ

〈4点×2〉

問三

a || 願望（希望） b || 意志・勧誘 c || 受身 d || 推量

〈2点×4〉

問四

1 || エ 2 || ク 3 || キ 4 || ウ

〈1点×4〉

問五

せ／むず／らむ

〈4点〉

問六

1 || 女房の車から男のような大きな声がする（18字）

〈7点×2〉

問七

イ・エ

〈6点×2〉

問二

ア || 交際する ① || 格別である

〈4点×2〉

問三

a || 強意（確述）・終止形 b || 完了・連体形

〈3点×3〉

問四

c || 過去の原因推量・連体形

〈1点×4〉

問五

1 || 思ったけれども 2 || 討ったり討たれたり

3 || 出家がしたい 4 || 苦しいことよ

〈5点〉

問六

(1) || もとの妻のもとにはめつたにも通わなくなってしまった。

〈8点〉

問七

(2) || ア

夫がもとの妻と会ったことに対する憤り。(19字)

〈8点〉

イ

問二

ア || 夜通し・一晩中 ① || 起こす

〈4点×2〉

問三

a || 完了(存続) b || 願望(希望) c || 過去 d || 打消

〈1点×8〉

問四

e || 過去 f || 存続(完了) g || 完了 h || 詠嘆

〈5点×2〉

問五

③ || 詠んだところ、
落ちぶれてしまい、輿や車に乗ることもできなくなったから。(28字) 〈8点〉

問六

ウ
〈8点〉

問七

エ
〈8点〉

問二

ア || 幼い イ || はかない命

〈4点×2〉

問三

a || 推量・連体形 b || 打消意志・終止形

〈3点×2〉

問四

1 || 来たらしい

〈2点×3〉

問五

2 || 朝日がさすように見える (朝日がさすようだ)

3 || 音がするように聞こえる (音がするようだ)

〈5点×2〉

問六

① || どうして知らないはずがあるうか、いや知っているはずだ。

〈5点×2〉

③ || いとおしんでいるのだらう。

三人の孫が、何事もなければ長く生きていくであろうということ。

〈30字〉

問七

エ

〈8点〉

〈12点〉

問二

ア || 趣深い ① || つらい

〈4点×2〉

問三

a || 断定・終止形 b || 完了・連体形 c || 存在・連体形

〈3点×3〉

問四

1 || 例示・連体形 2 || 断定・連用形

〈1点×2〉

問五

1 || ウ 2 || イ 3 || ア 4 || エ
同じようであった

〈1点×4〉

問六

ア (2) (1) (2) (1)
空に浮かぶ月が暗い海に映っている様子。(19字)

〈10点〉

問二

㉞ 思いがけない

〈3点×2〉

① 〓 みすばらしく姿を変える・地味な格好にする

問三

㉞ 〓 ウ ㉞ 〓 カ ㉞ 〓 ク ㉞ 〓 ア ㉞ 〓 ケ

〈1点×5〉

問四

1 〓 長い爪で 2 〓 することができないで

〈2点×3〉

3 〓 見たのに

問五

手足が本当に汚い尼で、涙を流して念仏を唱える尼がございます。

〈7点〉

問六

イ

〈8点〉

問七

仏道修行に一心に励むこと。(13字)

〈10点〉

問八

ウ

〈8点〉

問二

ア || かわいらしい (いとしい) ① || (自然に) 思われる

〈4点×2〉

問三

a || 過去推量の助動詞「けむ」連体形

〈3点×2〉

b || 過去の助動詞「き」連体形

問四

1 || エ

〈1点×2〉

2 || オ

問五

① || たいそうかわいらしい子どもまでできてしまったので、

〈5点×2〉

③ || 立ち止まることができないことがあつて出発する

問六

あまり会わない自分のことを忘れずに、たいそう慕ってくれる点。

(30字)

問七

(1) 一人と火取 (完解)

〈6点〉

(2) ウ

〈8点〉

12

物語

狭衣物語 さくものものがたり

本書 ↓ p. 26 / 解説書 ↓ p. 48

問二

㊦ 並一通りでない・格別だ ㊦ そのまま

〈4点×2〉

問三

1 長くあつてほしいと思うものだなあ

〈2点×3〉

2 ひとつそりと隠れてしまうものよ

3 おお髪だなあ

問四

ああ、せめてあのような身だけでもありたいものだ。

〈6点〉

問五

ア

〈10点〉

問六

和歌を贈ってきた主人はどのような風流人であるのかということ。

〈30字〉

〈12点〉

問七

ア

〈8点〉

問二

A ≡ 男 B ≡ 男 C ≡ 女あるじ

〈2点×6〉

D ≡ 男 E ≡ 男 F ≡ 女あるじ

問三

エ

〈8点〉

問四

夫が宮仕えに忙しく、妻である自分に誠実でなかったから。(27字)

〈15点〉

問五

もし客の主人の妻が酌をしないならば飲むまい。

〈7点〉

問六

ウ

〈8点〉

問二

㊦ ㊦ まねをする ㊦ ㊦ つらく思う

〈4点×2〉

問三

ウ

〈3点〉

問四

1 ㊦ 逢坂の関（の番人）は（あなたを通すことを）決して許さないだろう。

〈1点×5〉

2 ㊦ 少しも違わなかった。

3 ㊦ 秋にはほとんど劣らないだろう。

4 ㊦ 毎回のようには参上することができない。

5 ㊦ 月をご覧にならないください。

問五

ア

〈5点〉

問六

決して拌みなさるな。

〈7点〉

問七

優婆崛多が、仏をまねた自分（天魔）を見て感動し、拌んでしまったから。

（30字）

〈12点〉

問八

エ

〈10点〉

問二

ア || 美しい ① || 残念だ

〈4点×2〉

問三

a || 謙譲・作者から帝

〈2点×3〉

b || 尊敬・帝から帝

c || 尊敬・作者から帝

問四

(1) 1 || ウ 2 || ア 3 || イ

〈1点×3〉

(2) 1 || おやすみにならないで 2 || 申し上げよう

〈1点×2〉

問五

帝はこれであろうとお思いになって、

〈5点〉

問六

エ

〈6点〉

問七

帝が自分を連れて行かず、元の姿を見たら帰ると言ったから。(28字)

〈12点〉

問八

ウ

〈8点〉

問二

ア 隔て心がない ① おつしやりかけてやめる

〈4点×2〉

問三

a ㉠ウ b ㉡イ c ㉢ア d ㉣ア

〈1点×4〉

問四

ア 作者 から 宮

〈1点×4〉

イ 作者 から 内の大臣

ウ 皇子 から かぐや姫

エ 皇子 から 翁

問五

(1) 頼り申し上げなさっているだろうことが気の毒だ。

〈5点〉

(2) エ

〈8点〉

問六

ウ

〈5点〉

問七

自分が玉鬘に恋心を抱いているということ。(20字)

〈10点〉

問八

エ

〈6点〉

17

歌物語

や
ま
と
も
の
が
な
み

大
和
物
語

本書 ↓ p. 36
／ 解説書 ↓ p. 68

問一
問二
問三

① ㍯ エ
② ㍯ ア
イ ア

〈10点×2〉

〈15点〉

〈15点〉

戦国策

本書 ↓ p. 38
解説書 ↓ p. 72

問 二

(1) ア || しばしば イ || こたえて
非(非)ニ =

$$\begin{array}{r} \wedge \\ 1 \\ \text{点} \\ \times \\ 3 \\ \vee \end{array} \quad \begin{array}{r} \wedge \\ 4 \\ \text{点} \\ \times \\ 2 \\ \vee \end{array}$$

非^ズ
(非)
二
ゝ二

書に非ず
訳ではない。

〈1点×3〉

無^シ(莫・勿・毋・亡)^ニ
一^{スルコト・モノ}

書	〔する(こと・もの)〕無し
誤	〔が・は〕ない。

〈1点×3〉

未_二ダ
一 〔セ〕

書未だ〔せ]ず
記まだしない。

〈1点×3〉

問四

(1) 私
2 || 爾未だ天命を知らず。

2点×2

私

4点

(2) 秦王

〈5点〉

問五

これをなすこといかん（と。）

< 8 4 >

問六

王はその弁の立つ使者の言うことを聞いてはいけません。

〈9点〉

問七

1

〈重点〉

問二

(1) まさに

問三

死ぬ

〈各4点〉

問五

(1) \nearrow (2)

未だ必ずしも賢ならず。

問七

ウ (2)

甚だしくは信ぜず。

縦は隠娘の忠告をそれほどは信じなかった。

問
八
イ

各8点 8点 5点 6点 2点

不 ^ニ 常 ^ニ — (セ)	書 ^ニ 常 ^ニ には ^ニ 「セ」ず	詔 ^ニ いつも ^ニ 「セ」とは限らない。【部分否定】
常 ^ニ 不 ^ニ — (セ)	書 ^ニ 常 ^ニ に ^ニ 「セ」ず	詔 ^ニ 常に ^ニ 「セ」ず
不 ^ニ 復 ^ニ — (セ)	書 ^ニ 復 ^ニ た ^ニ 「セ」ず	詔 ^ニ 二度とは ^ニ 「セ」ない。【部分否定】
復 ^ニ 不 ^ニ — (セ)	書 ^ニ 復 ^ニ た ^ニ 「セ」ず	詔 ^ニ 今回もまた ^ニ 「セ」ない。【全部否定】

問二

㊦ ㄥすなわち ㊧ ㄥそれ

ㄥ4点×2

問三

(1)

不 レ 得 ル 不 二 レ セ	不 レ 得 ル 不 二 レ セ
認 セ ず に は い ら れ な い。	認 セ ず に は い ら れ な い。

ㄥ1点×2

(2)

ㄥ2点×2

 1 ㄥ今まで一度も書を捨てて嘆かないことはなかった。
 2 ㄥどんなものでも生長しないものはない。

問四

イ

ㄥ6点

問五

(1)

ㄥ5点

 自ら勉めざるべからず。
 自分で努力しなければならない。

ㄥ8点

問六

 必ずしもとから悪いわけではないが、後々の習慣によって悪い性質が
 身に着いた人。

ㄥ10点

問七

ウ

ㄥ7点

問二 問三

- (1) ㊦ いえども ㊧ かくのごとし

〈4点×2〉
〈1点×4〉

何(奚) <small>〔スル〕</small>	誰(孰) <small>〔スル〕</small>	安(安)・焉(焉)・奚(奚)・寧(寧) <small>〔スル〕</small>	孰(孰) <small>〔スル〕</small>
書 何をかゝ〔する〕	書 誰かゝ〔する〕	書 安くんぞゝ〔する〕	書 孰れかゝ〔する〕
記 何をゝするか。	記 誰がゝするか。	記 どうしてゝするか。	記 どちらがゝか。

- (2) 1 ㊦ どこにいるか。 2 ㊦ 誰が字問を好きだと思うか。

〈2点×2〉

問四 問五 問六 問七 問八

- どうして近寄ってくるのですか。
鄭子が任氏を一心に思い慕うこと。(16字)
相棄つるに忍ぶるか。(。と。)

〈5点〉
〈10点〉
〈5点〉
〈6点〉
〈8点〉

問 問

(1) ア ㊦ かじん イ ㊦ いな
 安 クニカ (セ)ン(ヤ) 書 安

〈4点×2〉

1点×3

安クニカ
ゝ(セ)ン(ヤ)

〔書〕安くにかゝ〔せ〕ん（や）
どこにかゝ、いやどこにもゝない。

如何、
（セ）ン（ト）

書 如何ぞ [せ] ん (や)
 記 どうして [か、い] やない。

如
二
一
何

書を如何せん
訳をどうしよう

(2) 1 Ⅱどこに身を落ち着ければよいだろうか、いやどこにも落ち着け

〈2点×2〉

る所はない。

211 お前をどうしようか、いやどうすることもできない。

〈6点〉

問四

1

問五

どうして彗星については恐れるものでしょうか、いや恐れるものではありません。(8点)

安くんぞ能く衆口に勝へんや(。と。(6点)

6点

問七

彗星の話を用いながら、多くの人民を苦しめている景公の悪政を戒めた
 ということ。(38字) (15点)

15点

問二

㊦ 〓 ころう ㊧ 〓 こたえて

〈4点×2〉

問三

1 〓 どうして

〈2点×4〉

2 〓 恥じないだろうか、いや恥じる

3 〓 避けない

4 〓 なんと・ではないか

問四

信賴する樂正子春の言葉で、讒鼎が本物かどうか確かめること。(29字) 〈12点〉

問五

(1) 胡ぞ其の真を以て往かざる(〇)と。 〈5点〉

(2) どうして本物の讒鼎を持って行かないのですか、持って行つてはどうですか。 〈8点〉

問六

エ 〈9点〉

問二

㊦ ㄥ かつ ㊧ ㄥ あたわ

問三

(1)

遣 _ム 二 A ヨシテ B 一	令 _ム 二 A ヨシテ B 一	教 _ム 二 A ヨシテ B 一
詔 _書 Aを派遣してBさせる。	詔 _書 AをしてB〔せ〕しむ。 Aに命令してBさせる。	詔 _書 AをしてB〔せ〕しむ。 Aに教えてBさせる。

〈4点×2〉
〈1点×3〉

問四

(2) 人をして題して門に活の字を作さしめ
不死の方法を食客に学ぶのが遅かったこと。(20字)

〈2点〉
〈12点〉

問五

(1) 安くんぞ能く王をして長生せしめんや。

〈5点〉

(2) どうして王に長生きをさせることができようか、いやできない。

〈8点〉

問六

イ

〈12点〉

問 問

(1) ア || たちまち イ || よりて (よって)

見 ^{らる} ル	(セ)
皮・鳥・所	書くる・く

$$\begin{array}{r} \wedge \\ 1 \\ \text{点} \\ \times \\ 3 \\ \wedge \end{array} \quad \begin{array}{r} \wedge \\ 4 \\ \text{点} \\ \times \\ 2 \\ \wedge \end{array}$$

問 四

父親が村人に殺された。

6点 6点

問六

老人が馬をたいて驚かせたことで、鹿を逃がしてしまったから。(30字)(12点)

9点

(2) 1 Ⅱ 駆らること犬と鶏とに異ならず。

$$\langle 2 \times 3 \rangle$$

見 ^ミ (被 ^レ ・為 ^ル ・所 ^ニ) 二	書 ^シ る・ ^シ (^セ)らる ゝれる。ゝされる。
A ^ニ 於 ^テ (于 ^ニ ・乎 ^ニ)B ^ニ	書 ^シ BにAる・BにA(^セ)らる BにAされる。
封 ^フ 二 ^ニ 一	書 ^シ に封ぜらる に領土を与えられる。

問二

- (1) ㊦ まみゆる ㊧ のみ

A ^ハ ニ 於 ^ニ 于 ^ハ 乎 ^ニ	㊦ ㊧ ^{ヨリモ} AはBよりも AはBよりも だ。
A ^ハ 不 ^レ 如 ^カ (若 ^レ B ^ニ)	㊦ ㊧ ^{ヨリ} AはBに如かず AはBに及ばない。(AよりBの方がよい。)
莫 ^シ ニ 於 ^ニ A ^ニ	㊦ ㊧ ^{ヨリ} Aより「なる」は莫し Aよりであるもの(こと)はない。

(4点×2)
(1点×4)

- (2)

1 霜葉は二月の花よりも紅なり。

(2点×2)

2 百聞(数多く話に聞くこと)は一見(一度見ること)に及ばない。

問四

未だ嘗て従容たらずんばあらず。

(5点)

問五

軍隊を率いるときに最も重視するべきこと。(20字)

(9点)

問六

(1) 愛に如くは莫し。(と。)

(8点)

問七

(2) イ 兵士たちを大切にすることに及ぶものではありません。

(7点)

問二

㊦ 側近 ㊧ 少しでも

問三

(1)

A ^ハ B。(而 ^ル 況 ^ン 乎 ^ヤ 。)	書 AはB(而るを)況んやCをや。 誤 AはBである。ましてCはなおさら(B)だ。
A ^{スラッ} 且 ^ツ B。況 ^ン C ^ヲ 乎 ^ヤ 。	書 Aすら且つB。況んやCをや。 誤 AでさえもBだ。ましてCはなおさら(B)だ。
A ^{スラッ} 且 ^ツ B。安 ^{カンジ} C ^セ ん(乎 ^ヤ)。	書 Aすら且つB。安くんぞC(せ)ん(や)。 誤 AでさえもBだ。ましてどうしてCし ようか、いやCしない。

〈4点×2〉
〈1点×4〉

問四

(2) 凡人ですらよくないことを知る。まして賢人はなおさらだ。

秦西巴に持ち帰って、猟で捕まえた子鹿を煮させた。

問五

安くにか在る(。と)。

問六

ア

問七

まして人間(の子ども)はなおさら大事にする(15字(19字))

〈2点〉

〈8点〉

〈6点〉

〈10点〉

〈12点〉

問二

㊦ 〓 およそ ㊧ 〓 かえ

〈4点×2〉

問三

(1) ① 〓 惟・徒・但・真・只・直・特 など

〈1点×2〉

② 〓 己・耳・爾 など

(2) 1 〓 初めはとても狭く、やつと人が通れるだけだった。

〈2点×2〉

2 〓 聖人に非ざるよりは、免れ難き所なり。

問四

イ

〈6点〉

問五

(1) 但だ衆木に於いて後と為るのみ。

〈5点〉

(2) ただ、他の多くの木（松柏以外の木）に対して後になる（遅れる）

だけだ。

〈7点〉

問六

松や柏だけは、春に芽生えた葉が成長した後で、古い葉が落ちる性質を持つということ。（40字）

〈12点〉

問七

ウ

〈6点〉

問二

㊦ 徳のない人・つまらない人 ㊧ 仕える

〈4点×2〉

問三

(1)

如 ^シ 若・似 ^ニ 一 ^ノ ヲ	書 ^シ の(が)ごとし
似 ^{タリ} ニ一 ^ニ	書 ^シ の(が)ごとし
猶 ^ホ 由 ^ニ 一 ^ノ ヲ	書 ^シ の(が)ごとし

〈1点×3〉

問四

 (2) 1 神業のようだ 2 悪人のようではない
 利益を好むつまらない者たちの派閥では、利益が尽きると交際が疎遠に
 なるということ。(40字)

〈2点×2〉

問五

 (1) 終始一のごとし。
 (2) エ

〈5点〉

〈8点〉

問六

 君主は、偽物の仲間となるつまらない者を遠ざけ、真の仲間となる君子
 を登用すべきだということ。

〈10点〉

30

漢詩

無題

本書 ↓ p. 62 / 解説書 ↓ p. 120

問一

七言律詩

問二

イ・ウ

問三

エ

問四

ア

問五

まさにおぼゆべし

問六

ウ

〈6点

6点×2

〈6点

〈10点

〈6点

〈10点